

(単元)日本の政治機構

(本時のねらい)

本単元の学習内容は、我が国の政治機構について、その現状と課題を理解させるとともに、現実の生活の中から現代の民主政治と政治参加の意義について考察させる。その中で地方自治に触れながら、政治と生活との関連について認識を深めさせる。それを踏まえた上で「自分たちが住みやすい町とはどんな町か」を考え、地方政治との関わりを理解させることをねらいとする。

(ICT活用方法)

グループでまちづくりをするために授業支援アプリを使用して、グループで共有できるようにする。従来はプリントを使用して一斉にはできなかった。しかし生徒1人1台端末を使用し、画面を共有することで、同時に執り行うことができるように工夫した。

(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法
導入 5分	・授業の目標を理解する。	・まちづくりをするために必要な施設制度について考えさせる。	
住みやすい町に必要なものは何かを考察し、表現する。			
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住む町の現状について知る。 ・グループ内でどんな町を作るか授業支援アプリを使用しグループで意見を共有する。 ・各グループが作った町を授業支援アプリを使用して発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住む町の制度や施設について話し合い意見を共有させる。 ・グループで話し合い、それぞれどんな町を作るかを自分たちの住む町を基に考え、制度や施設を考えさせる。 ・各グループがどんな町を作ったかを聞き、メリット・デメリットを考え、表現させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業支援アプリを使用しながら、絵を用いて表現させる。 ・授業支援アプリを使用して発表し、クラスで共有し合う。
まとめ 10分	・本時の学習内容を振り返る。	・自分たちの「これから」住む町をより住みやすくするためには自分たちが主体となって意見を伝え、地方自治の本旨の重要性を理解させる。	

(授業の様子)



授業支援アプリで意見共有



グループでまちづくり



電子黒板で意見共有

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

グループで授業支援アプリを使用し，意見を出し合い共有し合うことによって，生徒たちの学びが深まったように感じる。ただ，こちらの授業支援アプリの設定が上手く出来ず，はじめに一人ひとりが1人1台端末を使用してグループワークが出来なかった反省点がある。もう少し，自分自身が授業支援アプリなどのアプリを研究し，使用することが大切だと改めて実感した。